

第4回 20年前にタイムスリップしたような

M & AとはMerger and Acquisitionの略で、Mergerは合併を、Acquisitionは会社の財産権を取得する行為を意味します。日本では通常**企業買収**と訳されることが多いようです。

M & Aの目的はいくつかに分けることができます。

- 1、複数の企業が1つになることで、シナジー効果による効率化や市場支配力の強化
- 2、企業規模（成長）の追求
- 3、異業種への進出・多角化によるリスク分散
- 4、割安な会社を買い、M & A後に売却することで利益を得る いわゆるマネーゲーム
- 5、中小企業の経営者の希望による売却

ただしM & Aには、対象となる会社の経営陣（取締役会）の同意のもとに進められる友好的M & Aと、同意なしに進められる敵対的M & Aに分けることができます。そして敵対的M & Aに対して、対象となる企業は様々な手を駆使して買収を防ごうとするのです。

M & Aの対抗手段

作戦1：あらかじめ寄せ付けないようにする

シャーク・リペラント

作戦2：高いコストを予想させて、相手の戦意を喪失させる

ポイズン・ピル

ゴールデン・パラシュート

ティン・パラシュート

マカロニ・ディフェンス

作戦3：目には目を、歯に歯を

バックマン・ディフェンス

作戦4：強力な味方や助っ人に頼る

ホワイト・ナイト

（第三者割当増資）

作戦5：ターゲットそのものの魅力を失くす

クラウン・ジュエル（焦土作戦）

ピープル・ピル

シャーク・リベラント

鯨よけを意味する言葉で、予め定款に買収を困難にする規定を設けることで、敵対的なM & Aを仕掛けにくくすることです。具体的には、合併承認の要件を法定のものより複雑にする合併承認要件加重条項、取締役の改選時期をずらすことで取締役会支配の遅延を図る期差取締役選出事項、買い占めた株式を高値で買い戻し請求をすること（グリーンメール）を制限するグリーンメール禁止事項などです。

ポイズン・ピル

買収者が標的会社の株式を取締役会の承認なしで一定比率以上取得した場合に、自動的に発動する特殊な条項を盛り込んでおくことです。買収コストを飛躍的に引き上げることで、手を出すと命取りになりかねないことから“毒薬”と名付けられました。具体的には、標的となった会社が自社の株式を買収者以外に時価より安い値段で株を買う権利を与えることで、買収者の比率を大幅に引き下げるフリップ・イン、社債発行後に会社を買収された場合、会社が債権者に繰り上げて償還する事項を盛り込むポイズン・プットなどがあります。

ゴールデン・パラシュート

会社支配権の変更などが発生した際に、多額の割増退職金を標的会社の役員に支払う契約のことです。人数は少ないが1人あたりの金額は多いのが特徴。

ティン・パラシュート

会社支配権の変更などが発生した際に、多額の割増退職金を、標的会社の従業員に支払う契約のことです。1人あたりの金額は少ないが、人数が多いのが特徴。

マカロニ・ディフェンス

敵対的買収が成立したときに、高い償還価格で強制償還する債券を大量発行することです。債券の償還価格が茹でたマカロニのように膨らむことから由来します。

バックマン・ディフェンス

敵対的買収の標的となった会社が、逆に相手の会社を買収を仕掛けることです。

ホワイト・ナイト

敵対的買収の標的となった会社が、友好的な会社に自社の買収を依頼すること。M & Aでは友好的な買い手をホワイト・ナイト、非友好的な買い手をブラック・ナイトといいます。

第三者割当増資

特定の第三者に新株を割り当てることです。今回のフジテレビ側の施策はこれに該当します。

クラウン・ジュエル

営業権や特許権など、標的となった会社にとって魅力のある資産のことです。これを処分す

ることで、買収したとしても魅力がないようにすることです。これは焦土作戦とも呼ばれます。

ピープル・ビル

現経営陣が退陣することで、ビジネスを熟知する人材がいなくなるようにすること。

参考文献 『図解雑学M&A』（2005）小川好澄（監） ナツメ社
『週刊ダイヤモンド』2005年4月16日特大号（通巻4077号）ダイヤモンド社